昭和47年5月1日発行（毎月1回1日発行）第21巻・第6号 昭和28年6月30日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第…号 昭和28年3月24日 第三種郵便物認可

航空ファン

THE KOKU-FAN

ワイドカラー
WIDE COLOUR

川西
紫電改



特集
新アングルのソ連軍用機 スナップ集
驚異の攻撃機"ハリアー"の技術と用法
19用スケールRC機"アントワネット"

'72 MAY 5



EA-6B 電子偵察機

垂直尾翼先端にALQ 99ジャミング・システムの受信機・アンテナを収めた大きなバブル・ドームを付けたEA-6Bイントルーダー。写真はその最成部隊VAQ 29の所属機。(先月号アート ページ参照)





米海軍の可変翼艦上戦闘機F-14Aは、来年夏頃までに部隊配備の計画で、ただいま原型機を使ってテストの真最中。"トムキャット・テスト計画"に参加するのは1～20号機までの19機（1号機は事故で失なわれている）で、これで飛行テスト、艦上テスト、乗員と地上要員の訓練などを行なって最初の部隊を編成するが、現在そのほとんどが完成して飛行を終えている。

〔左ページ〕"フライト計画"の1機としてグラマンが改造したNA-6イントルーダーから給油テスト中の2号機。〔上〕失なわれた1号機にかわって高速飛行テストを受けもっているF-14A-1X（12号機を代用）。〔下〕トムキャットのモックアップ 初めて公開されたころのスナップである。





グラマンでは高速追跡用に3機のF-4ファントム、低速追跡と空中給油母機として3機のKA-6（A-6にマクダネル・ダグラスのバディ・パック給油装置を装備したもので、KA-6とは異なる）、それに1機のA-6でF-14テスト・チームを編成して計画を進めているが、飛行、艦上テストにつづいて、ウエポン・システム、エビオニクス・システムなどの評価テストが今年いっぱいつづけられる。

なお、4、5、6、8号機の4機は、カリフォルニア州ポイント・マグー海軍基地に送られて、AWG-9火器管制装置やAIM-54フェニックスを搭載してテストされている。また3号機は強度テストとデモ用、7号機はF-14Bのプロトタイプで、10号機は艦上テスト、15～19号機はパイロットの訓練に使われることになっている。





前ページとこのページは，飛行テスト中の1X号機。高速飛行テスト用の同機は，これまでに42,000フィートでマッハ0.96を記録している。機内には536種もの計測値を記録する機器を積んでいる。写真で主翼を前張（後退角20度）した低速飛行，いっぱいに後退（68度）させた高速飛行時の対比がわかって面白い。




03
3H
NAVY
303
VT-23
VT-22



[illegible] VA-45 ブラック [illegible] 飛行隊 [illegible]





NP
NAVY
303



5091


26
NAVY


AF
7825
VA-203
NAVY





ヨービルトン海軍基地の展示機





[illegible]

(Photos by Mr P F Thompson)





西ドイツ空軍のRF-4E

西ドイツ空軍の装備する88機のRF-4Eファントムllは，1971年の春から引渡しが開始され，すでに第52偵察飛行隊（AG 52）などの部隊の編成を終えているが，この写真は領収したばかりの1〜2機スナップ。上の写真ではイギリス空軍のF-4M，アメリカ空軍のF-4Eと編隊で飛行中。エース空中衝突防止装置を付けているのに注意



ションブルの老兵たち









[illegible] イギリス空軍爆撃機 アブロ ランカスター [illegible] A474 [illegible] 365 [illegible] (5506) [illegible]




F
77
77


XE
22
00

① A PAINTING PATTERN
② Mk IIa OF No 52 OPERATIONAL TRAINING UNIT ASTON DOWN SPRING 1942
③ Mk IIa OF CENTRAL GUNNERY SCHOOL SUTTON BRIDGE MARCH 1943
4 Mk Ia OF No 610 COUNTY OF CHESTER SQUADRON BIGGIN HILL SERIAL ESTIMATED



平面塗装例
2 Mk IIa 第52訓練部隊所属機 1942年春 アストン・ダウン配備
3 Mk II 中央射撃訓練学校所属機 1943年3月 サットン・ブリッジ配備
4 Mk I ビギンヒル基地 カウンティ・オブ・チェスター中隊所属機 シリアル推定

2



③



④



K.Hashimoto

スーパーマーリン スピットファイア Mk. 1～2

SUPERMARINE SPITFIRE Mk 1～2

第2次大戦最大の山場であったバトル・オブ・ブリテンで大活躍をし、祖国イギリスを敗亡から救った不朽の傑作戦闘機で、スピットファイアは第2次大戦中のイギリスを代表する戦闘機である。

キット紹介

レベルからは1/32のキットと1/72のキットが発売中で、1/32のスピットファイアは傑作と定評のある優秀キット。Mk.1のスタンダード・モデルのほかシーファイアMk.2、スピットファイアMk.5等のコンバーチブル・キットの2種があり、1/72の[illegible]2[illegible]なっている。いずれのキットもすぐれ[illegible]ている。

塗装について

図1 図4の迷彩パターンをもつ機体の下面塗装例

図2 Mk.2a、機体の上・側面はダークアース㉙とダークグリーン㉓の迷彩で、下面とスピナ、胴体の帯がスカイ㉔、胴体の文字はグレーで、シリアルは黒、INSPIRATION の文字は白となっている。

図3 Mk.2a、後期迷彩のスピットファイアで、機体の上・側面がダークグリーン㉓とダークシーグレー㉕の迷彩、下面はスカイ㉔で、スピナと胴体の帯もスカイ。BVの文字は白。主翼下面の国籍マークは白線の幅が狭い後期タイプとなっている。

図4 Mk.1aで、第610スコードロンの所属機。機体の上・側面がダークアースとダークグリーンの迷彩、下面はスカイブルー、スピナは黒で、胴体の文字はグレー、シリアルは不明なので図は推定ナンバーとなっている。

(K. Hashimoto)

MK[illegible] データ (technical data)

全幅 (span) 11.23m 全長 (length) 9.12m 全高 (height) 2.69m 翼面積 (wing area) 22.4m² 発動機 (engine) マーリン3 (M[illegible] 型 1,050HP) ×1 全備重量 (gross weight) 2,612kg 最大速度 (max speed) 582km/h 実用上昇限度 (service ceiling) 9,720m 航続距離 (range) 636km 武装 (armament) 7.7mm×8または20mm×2 +7.7mm×4 乗員 (crew) ×1。

It is well known that Great Britain passed its greatest strategic crisis, the "Battle of Britain", thanks to Spitfires. The Spitfire was the immortal British masterpiece fighter that rescued the mother country from destruction.

KIT

Two different Spitfire kits are now on sale from Revell in the 1/32 and 1/72 series. The 1/32 series kit has the established reputation as one of the most excellent kits on the market. The 1/32 series kit includes the Seafire Mk.2 and Spitfire Mk.5B convertible models as well as the standard Mk.1. The 1/72 series model is the Mk.2.

PAINTING

Fig.1 These are painting examples of the aircraft which have patterns as shown in Fig.4.

Fig.2 This is the Mk.2a. The top and sides of the fuselage are camouflaged with Revell Color (RC) 29 dark earth and RC 23 dark green, while the fuselage bottom and the belts on the fuselage are RC 24 sky blue. Letterings on the fuselage are gray and the serial numbers are black. The word "INSPIRATION" is white.

Fig.3 This is another Mk.2a. The camouflage shown was used in the latter period. The top and sides of the fuselage are camouflaged with RC 23 dark green and RC 25 dark sea gray. The lower surfaces, the spinner and the fuselage bands are RC 24 sky blue. The letterings "BV" are white. The white coloring in the nationality mark on the lower surfaces of wings are narrow. This is a characteristic of Spitfire painting in the latter period.

Fig.4 This is the Mk.1a which belonged to the 610th Squadron. The tops and sides of the fuselage are camouflaged with dark earth and dark green, while the lower surfaces are sky blue. The spinner is black. Letters on the fuselage are gray. The serial numbers are not known and those on the figure are imaginary numbers.

(K. Hashimoto)

スピットファイアの塗装に必要なレベル カラー	
1ホワイト	3レッド
㉙ダークアース	㉓ダークグリーン
⑱ライトブルー	㉔スカイ
㉕ダークシーグレー	㉝黒つや消し
㉞黄褐色	㉞フラットベース



スーパーマーリン スピットファイアF Mk XII 12 戦闘機 EBのコードレターをつけた第41スコードロンの所属機 同スコードロンは1943年秋にホーンチャーチで のスピットは12型を装備している 機体は上面をダークシーグレー・ダークグリーン 下面はミディアムシーグレーのスタンダードの3色迷彩



スピットファイア LF Mk.16

アメリカの空軍博物館に展示されているスピットファイアLF Mk.16。1959年イギリス空軍から贈られたものだが、手入れが行きとどいていて、いまでも飛べそうな状態である。

FOCKE-WULF *Fw190A*

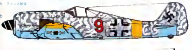
① PLANE FIGURE OF No 3 DRAWING
② Fw190 OF 2 SG2 IMMELMANN HUNGRRY WINTER 1944 45
③ Fw190A 4 OF I SKG 10 FRANCE SPRING 1943
④ Fw190A 5 OF PROBABLY JG 2 RICHTHOFEN TRAINING UNIT FRANCE 1943

① 図③の機体の上面塗装
② Fw190 第2対地攻撃大隊〈インメルマン〉第2 I 飛行隊機 1944 45年の冬期 ハンガリー駐留
③ Fw190A 4 第10高速爆撃大隊第1飛行中隊機 1943年春 フランス駐留



④ Fw190A 5 第2戦闘大隊〈リヒトホーフェン〉訓練部隊の所属機と思われる機体 43年 フランス駐留

②



③



④



フオッケウルフ Fw190

FOCKE WULF Fw190

好敵手スー[illegible]とされ，最後まで改良発展しつづけたドイツの傑作戦闘機Fw190はドイツ初の[illegible]独特の構成案をもつ機体で，1939年6月，原型機Fw190V1の初飛行以来トラブルもなく各改良型を生み，実戦部隊へ配属されて活躍した。

Fw190A型から[illegible]一連の試作型をへてAシリーズ，B型，試作のC型をへて"長っ鼻"と呼ばれるDシリーズ，[illegible]のD型は最大速度700km/h近い快速を誇った。さらにF型とG型があり，Fw190系の最終型は名称が変更されTa152シリーズとなった。各型合計約20,000機という大量のFw190が生産された。

キット紹介

Fw190A-3のキットはレベルの1/72シリーズで発売中。モデルの全幅は14.3cm，全長12.4cmという手ごろの大きさで，Fw190の特徴をうまく表現したキットである。

塗装について

ドイツ機はカムフラージュやマーキングのバリエーションが多く，ずいぶん楽しめることはご存知のとおりで，このFw190も例外ではなく，いろいろ楽しい塗装ができる。

図1と3は1[illegible]の所属機で，胴体の側面や主翼下面は黒っぽい青[illegible]，カウリングの上半分はライトグレー（グレー75を白で薄める）でRLMグレー（グレー75）と[illegible]ダークグリーン23と白の混色）のまだら迷彩。胴体の背はダークグリーンで側面はライトグレーの地色に[illegible]ダークグリーンのはんてんがある。翼上面はダークグリーン1とブラックグリーン8の迷彩。Hの文字はグレー74。

図2は2[illegible]の所属機で，機体の上側面はグレー75の地色の上に[illegible]の蛇行迷彩があり，翼上面の蛇行迷彩は進行方向に平行した形となっている。胴体の帯と主翼翼端上下面は黄橙色38，スピナは黒と白線のうず巻き入り。下面はライトブルー39となっている。

図4：機体の側面と下面が黄橙色38の識別塗色で，機体の背は[illegible]ダークグリーン1のまんだら迷彩があり，翼上面は図1と同じくダークグリーンとブラックグリーンの迷彩である。

（[illegible]）

The Fw190 was the primary German fighter during WWII. As was the case with the British Spitfire, improvements were made in the [illegible] and [illegible] since its first flight by the Fw190V1 in June 1939 [illegible]. It [illegible] successfully [illegible] aircraft. After [illegible] series [illegible] test models V1 through V[illegible], the Fw190 was mass produced in the A, B, C and D models. The D series aircraft, called "Long Nose", could reach a speed of 700 km per hour. The aircraft continued to be improved in the F and G models and finally changed its name to the Ta152 model. Nearly 20,000 planes were produced in all.

KIT

The Fw190A-3 model aircraft kit is now on sale in the Revell 1/72 series. Characteristics of the Fw190 are well expressed in this handy kit 14.3 cm wide and 12.4 cm long.

PAINTING

Every model aircraft fan knows that German aircraft kits abound in marking and painting variations. The Fw190 is no exception; you can enjoy a great variety of camouflage schemes.

Figs. 1 & 3: This belonged to the [illegible]. The sides of the fuselage and the lower surfaces of the wings are [illegible] black with Revell [illegible] (RC [illegible]). The upper cowling is light gray (RC [illegible] gray 75 lightened with white) with spotted camouflage of RLM gray [illegible] by mixing RC [illegible] gray with a little amount of RC [illegible] dark green and white). The fuselage top is RC [illegible] dark green while the sides are light gray with dark green dots. The upper wing surfaces are camouflaged with RC [illegible] dark green and RC [illegible] black green, and the letter H is RC [illegible] gray 74.

Fig. [illegible]: This belonged to [illegible]. The upper sides of the fuselage are painted in RC [illegible] gray 75 with [illegible] camouflage. The ripple camouflage is also on the upper surfaces of the wings parallel to the ripples.

The belts on the fuselage and the tips of the wings (both upper and lower sides) are RC 38 orange-yellow, and spinner is painted in whirlpools in black and white lines. The lower surfaces of the wings are RC 39 light blue.

Fig. 4: This is a trainer. The sides and bottom of the fuselage are RC 38 orange. The top of the fuselage is camouflaged with RC 17 [illegible] green and black green similar to that of Fig. 1. [illegible]

Fw190A-3データ（[illegible]）

翼幅（span）10.5m，全長（[illegible]）8.84m，全高（[illegible]）3.96m，全備重量（[illegible] weight）3,850kg

発動機（engine）BMW801D-2（1,700hp）

最大速度（max speed）650km/h，実用上昇限度（[illegible]）11,400m，航続距離（range）800km，武装（armament）13mm×2，20mm×4，乗員（crew）1

Fw190の塗装に必要なレベルカラー	
1ホワイト	5レッド
ダークグリーン	8ブラックグリーン（ブラックダークグリーン）
9ライトブルー	23ダークグリーン
38黄つや消し	グレー75
[illegible]黄橙色	[illegible]ブラッドベース



フォッケウルフ Fw190A 3戦闘機 第2戦闘大隊「リヒトホーフェン」のアーミン・ファーバー中尉の乗機　同中尉は英仏海峡上空での空戦に疲れ、フランス東部と錯覚し「英本土のイギリス空軍基地へ」ブレイに不時着　乗機ともども捕虜になっている　写真は不時着まもない頃の撮影で　塗装もそのまま　機首には第2戦闘大隊「JG2」のいわどりマークを描いている





F-8J クルーセイダー

胴体側面 サイドワインダーAAMを装備して飛行中のF-8J。攻撃空母ハンコック（CVA 19）に配置されていた第24戦闘飛行隊（VF 24）チェッカーテイルズの所属機 1971年3月の撮影



F-8E クルーセイダー

攻撃空母フランクリン・D・ルーズベルト（CVA-42）に配属されていた第11戦闘飛行隊（VF-11）"レッド・リッパーズ"のF-8E 1964年5月の撮影（上）

A-4C スカイホーク

攻撃空母アメリカ（CVA-66）のカタパルトにセットされるA-4C。第64攻撃飛行隊（VA-64）"ブラック・ランサーズ"の所属機 1965年4月の撮影







隊（VA-703）の両翼機 E-1トレーサーの1機を発艦に離艦して行く 1971年6月の撮影





零式戦闘機52型

車輪止めをはずして出撃、スタートする零戦52型 昭和20年春 内地での撮影 プロペラ、スピナーが大きく、エンジン カウリングも標準の零戦52型よりやや大きめの感じで

で、空襲情報部の所有機であるライト「ダソン空軍基地に　あるところである。戦後アメリカに持ち去られた試作
軍用機は　一機ものこ　てほとんどが　その後行先不明のままスクラップにされて　るが　　れはアメリカで
の　連山　の消息をつかし貴重な記録

（ライト航空一提供）

The 18 Shi experimental attack Bomber "Renzan" (G8N1) in U.S.A.





愛知零式水上偵察機（E13A1）

太平洋戦のあらゆる戦場に投入されて　偵察　哨戒から攻撃　連絡と幅広い任務に使わ
れた3座の　[illegible]水偵。写真の機体は初期の型で　[illegible]の編隊飛行　大湊航空隊の所属



スタートしたハリアー部隊



イギリスのハリアー部隊は [illegible] 3、4、20スコードロンと [illegible] 飛行隊の編成を終え、実用飛行訓練も行なっており、ハリアーの [illegible] 配備も完了したというところである。各飛行隊はGR Mk.1が約14機と複座練習型のT Mk.2が4機の編成とみられ、前ページはT Mk.2を先頭に編隊飛行中の第4スコードロンの各機。【上・下】いずれも第 [illegible] スコードロンの所属機





新アングルのソ連軍用機







【右上】本機の最新長距離戦闘機ツポレフTu 28P（フィードラー）。1961年のツシノ航空ショーで初めて公開されているが的よい鮮明な写真は珍らしい タンデム複座で長い 後退角付きの主翼は中翼配置 すで 機一機く配備されているものとみられる 写真では機体胴体下のベントラル フインや空気取入口のマッハ コーンまでよくわかる 主翼下 アッシュ型AAMを4発吊して飛行中。【左下】スホーイSu 9（フィッシュポッド）迎撃戦闘機 写真の機体は [illegible] の最近機で 胴体下 [illegible] アナブ型AAMとサイルのランチャーを装備しているのに注意。【上】スホーイSu 7B。機首のピトー管が中央から右に移された最近の型。【下】MiG 21PF（フィッシュベッドD）の迎撃部隊 夜間の緊急発進訓練のときの模様である









【上】ツポレフTu‐22（ブラインダー）爆撃機の[illegible]型。ブラインダーDと呼ばれるもので、後席が一段と高くなっているのが写真でもわかる。

【右ページ上】Tu‐22の射出座席…[illegible]を点検している[illegible]スナップで[illegible]下に二つ[illegible]下っているのは[illegible]席の下方射出式のもの。パイロットのは上方射出式とみられている。左側に見える機体も同じくTu‐22。

【左2枚】ツポレフTu‐16（バジャー）爆撃機の機首。機首の[illegible]まで[illegible]をしたバジャーFと[illegible]われる。[illegible]に[illegible]されている23mmの機関砲がよくわかる。

【右ページ下】スホーイSu[illegible]のSTOL型（フラゴンB）。胴体の背部に見える[illegible]の空気取入口の下にリフト・ジェットが[illegible]とみられている。これはテスト飛行中の写真だが、本機の実用化は[illegible]とみなる[illegible]もある。











【上】前ページのブラ…と一緒に1967年7月 ドモデドボ空港の航空ショーで初めて公開されたヤコブレフV STOL実験機(フリーハンド)。その後の開発状況は不明であるが 写真の機体は2機公開されたうちの1機で 主翼下…ケット弾ランチャー(…発用)を吊して飛行テスト中のもの。【中】ミコヤンV STOL迎撃機(フェイスレス)。…れもが 2機開発中の軍用V/STOL機の 機 フラゴンBよりは1割で リフト エンジンも2機装備とみられている。写真は着陸態勢のシーンで リフト ジェットの排気で地面のほこりが舞い上がっている…

【下】モンゴール空軍のMiG21F(フィッシュベッドC) 米海軍が撮影したもので 胴体下に増槽 主翼下にはアトール空対空ミサイルを装備している。開かれているダイブ・ブレーキなど細部がよくわかる写真である。




U.S. AIR FORCE
フォト ニュース





【前ページ】2月はじめに初飛行した米空軍のＡＷＡＣＳ（機上早期警戒管制）実験機。ボーイング707-320Bを改造して 胴体上部にこんもりのような大型レーダーを積んだもので 実験機はもう1機造られ それぞれウエスチングハウスとヒューズ両社のレーダーを搭載してテスト飛行を行ない どちらのレーダーを採用するかを決めることになっている

【上・右】沖縄の嘉手納空軍基地を離陸する"ブラック バード"SR-71A戦略偵察機。沖縄には3年ほど前から配備されて偵察任務についている。上と右は同一の機体である。



【上】アルゼンチン海軍のキャンベラ爆撃機はイギリス空軍の使用していたB.2を再生したものだが、写真のように翼下にロケット弾ポッドも懸架できる。1971年に10機が引渡されている。写真はイギリスで飛行中のスナップで、まだG-AYHPという民間登録記号がついている。【下】NASA（米航空宇宙局）とカナダ政府が共同で開発を進めているC-8Aバッファロ改造のSTOL実験機。改造はボーイング社で行なわれ、RRスペイRB.401ターボファン・エンジンを装備、バイパス・エアを主翼内のダクトを通して後縁のスロットから吹き出させ、離着陸時の揚力を高めようという"オーグメンター・ウイング"方式を採用している。3月中頃に初飛行の予定。





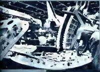
【左】 これのファントム戦闘機の最新型F4Fの主翼。F4Fは[illegible]主翼前縁スラットを新設している。これで格闘性能が向上しているが、電子機器の一部をはずし、LC[illegible]は廃止されるなどの簡易化が計られている。
　写真はそのスラットとボロン翼方向舵の実験のために造られた"アジャイル・イーグル"計画機で、昨年から飛行試験が続けられている。





【上】防氷装置などのテストのため雲のシェラネバダ山脈上空を翔ぶロッキードL1011トライスター。L1011はカナダのウイニペグで3月間の寒冷地テストも行なっており、ともに上々の成績をおさめているという。
【左】パームデールの工場でぞくぞく完成しつつあるL1011。イースタン航空とTWAのもので、同社には3月中に1機ずつ輸入され、そのほか年内に各航空会社へ22機が引渡されることになっている。





【上】ヨーロッパへのデモ飛行に出発するセスナ・サイテーション。4月21日から5月1日までハノーバーで開かれる航空ショーへの出品を機会に欧州諸国をまわって大いにPRすることになったもの。【左】川崎重工ではL1011の客室と貨物室ドアを製作しているが これはパームデールの工場に運び込まれて機体にとりつけられるその完成品

【右】インドネシア空軍はスカイバン3機を 去年から西イリアン(もとのニューギニア)で 民間輸送用に使われはじめたこれは民間仕様だが 最大積載距離が20パーセントもふえている



スナップ だより







【上】1月末に岩国基地へ飛来した米空軍のT29。同機が岩国に姿を見せるのは非常に珍らしい（岩国市・浜崎国寿）。

【左上】PACAF（太平洋空軍）の要人輸送用に使われているVKC135A。機首のマークが目新しい。横田基地にて（東京都・北畑則昭）。

【左下】オランダのマーチネエアのDC8。このほど国際線の翼を組んで羽田に飛来したもの（武蔵野市・井上哲也）。

【下】新明和甲南工場のスリップからテスト飛行に向うPS-1 13号機。2月8日の撮影（神戸市・湯田慶乃介）。

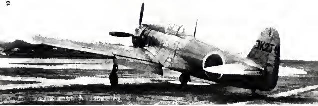


最後の防空戦闘機　川西　紫電改

THE KWANISHI INTERCEPTOR FIGHTER SHIDEN-KAI (N1K2-J)



The N1K2-J Shiden-KAIs, stripped of airscrews and guns ... hangar of Omura airfield, Kyushu following the Japanese surrender in August 1945. These SHIDEN-KAIs were operated by the No.343 Air Corps.



... SHIDEN KAI undergoing pre-delivery tests at ...



11型　紫電改より中翼の紫電を低翼にして胴部を改修したもの。すばらしい高性能機となり、武装も主翼に20mm機銃4門と [illegible] 翼式装 [illegible] 大戦末期、その威力を生かして松山から大村を基地に、本格的な防衛戦闘機隊の戦果を挙げて活躍した第343空の名前はみないまも [illegible] 文字どおり日本海軍最後の防空戦闘機であった。

The prototype SHIDEN KAI in its original unpainted condition at KAWANISHI factory. Also visible in the picture are the SHIDEN-KAIs (in front of the background hangar) and a SHIDEN (in the foreground right)





A SHIDEN-KAI which still exist in the U.S. AIR FORCE MUSEUM.

103ページ 終戦とともに大村海軍航空基地の格納庫で武装解除された紫電改（上武は紫電21型）全機がプロペラをはずされている

前ページ上 紫電改乃増加試作機で 室戸県「テスト中の1機

前ページ下と上 同じく紫電改の神部（紫電11乙型を改造した試作機）で 昭和19年3月31日 工場で撮影 上の写真でメーカー前に同機 左後ろ紫電が見える

（左）アメリカの空軍博物館に保存されている紫電改21型

未発表 海軍機写真集





大戦末期 沖縄方面に敵機動部隊が来襲してからは 数多くの海軍機が特攻作戦に駆り出されて 機種を問わなかった。飛べるものはすべて爆弾を抱いての沖縄攻撃。ぎりぎりの燃料がつきるころ敵艦と敵機をめざして突っ込んで ふたたび還らなかった。

このページと次ページに収録した写真はその時の攻撃のために九州の基地に集結した海鷲たちである。

〔上2枚〕沖縄の決戦場をめざして発進する零戦隊

〔左 下〕出撃を間近にひかえ 大わらわの整備。エンジン カウリングをはずした零戦52型である。





（右）これも特攻機として この基地に集められた艦爆彗星。空冷エンジンがメテ33型で 601航空隊の一部。

（下）同じく特攻出撃のために基地に集まってきた零戦隊。すべて52型と思われる。



Zero Fighters, which were employed on the "Special Attack" unit, lined up at an airfield in Kyushu. The special mission of the unit was to attack on the enemy task forces around the Okinawa Island. Above two photos show a flight of Zero (A6M5) takes off on the "Suicide Sortie" (Right) The D4Y3 dive bombers of No 601 Air Corps which now assigned to the Special Attack unit





(Above and Below) The E13A1b Type Zero Reconnaissance Seaplane returns to its naval air station in Kyushu after a patrol flight (left above) Ground crew service a Q1W1 "Tokai" the first anti-submarine patrol aircraft of the Japanese Navy on the apron of the Kyushu Aircraft Company (Left below) The K11W1 crew-trainer "Shiragiku"







〔前ページ2枚〕偵察・哨戒から攻撃・輸送など 太平洋戦争全期を通して広く使われた零式水上偵察機。九州の某基地（大村と思われる）で作戦中の全盛時のスナップである。写真の機体は単排気管にして性能を向上した11乙型（E13A1b一一型乙）で この型の鮮明な写真は珍らしい。

〔上〕日本海軍で初めての本格的な哨戒機 東海（Q1W1）。完成の時期が遅く活躍の機会が少なかったが急降下攻撃もできる意欲作であった。写真は九州飛行機で整備中の1機。

〔右〕機上作業練習機"白菊"（K11W1）。中翼で木製…の固定ピッチ・プロペラ…カバーなしの固定脚。白菊は…で練習機の意義をねらった機体でもあった。写真で前に立つ人物とくらべ意外と大きな機体であることがわかる。



鹵獲された日本の軍用機



CAPTURED JAPANESE WAR PLANES OF THE SECOND WORLD WAR. The Mitsubishi Ki 46 II Command Reconnaissance Airplanes in sadly dilapidated condition at the Chofu airfield outskirts of Tokyo during October 1945. The floating chrysanthemum crest on the fin shows the markings used by No 16 Independ[illegible]

《その19》

終戦とともに陸軍飛行場に放置された陸軍機。今回は司令部偵察機である。[illegible]し局防としたⅢ型の後期の[illegible]（K[illegible]46Ⅲ）で[illegible]している。いずれも昭和20年12月の撮影。

（上、左）機首部分。[illegible]は空力的には理想的な[illegible]型。金属[illegible]エンジンのカウリングも[illegible]しぼれるだけしぼって抗力を少なくしている。

（下）側面から見た[illegible]流れるようなすばらしいフェアリングのしかたスタイル。これが世界一を誇った快速偵察機でもあった。尾部の[illegible]の部分が壊れている[illegible]完全に空に出れる状態。

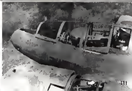




（上）[illegible]同じく1機で、後方にも[illegible]が写っている。フラップは単純な開き下げ翼。尾翼には[illegible]飛行戦隊[illegible]マーク[illegible]ている。







（中）[illegible]をはずして飛行場の片隅に集められた100式3型の1機。（下）その機首まわりで、[illegible]



（上）これも独立飛行第16中隊の所属であった100式司偵2型。本機は尾翼可動部分の塗装にまで細心の注意がはらわれていることがこの写真でよくわかる。
（下）操縦席のうしろに練習席を増設させた100式司偵の練習型。2型を改造して練習機が造られている。後方には1式高練や3式戦闘機も写っている。手前にころがっているのは米軍機の増槽で、当時局用したP-38やB-25などがこれを装備していた。

(Below) The Ki-46 II trainer version. The actual conversion of the Ki-46 II to trainer version involved to fit the raised instructors cockpit. The aircraft in the background are a Ki-54 and a Ki-61.



スピットファイアの戦闘記録（その9）



〔上 〕先月号 ひきつづ てVb型を改造 たスピ トの高々度戦闘型Mk Ⅵ マーリ 47エンジンを装備 4翅のロートル プロペラとなって操縦席は与圧され 主翼は高空での操縦性を良くするため 先端のとがったものとなって る

上の写真の機体AB534は Mk Ⅵ 第15号機で 1942年3月 ビ カース社のテスト飛行場 移動されたもの 同機は同年5月 第616 サウス ヨークシャー スコードロン 配備されて エース [illegible] ンの乗機となって る [illegible] の [illegible] 事故で失なわれ と伝えられて る

Ⅵ型は約100機が造られ 616の3か 第118中隊など 配備されて主 本土の防空戦 使われ るが 中東方面 も数機が送られて 写真偵察機ユンカースJu86P の迎撃 活躍し る 試作を含め Ⅵ型の一部は武装と操縦席の与圧装置をはずし 主翼を標準型のものに [illegible] 偵察機や通信連絡機として転用し る





上 H F Mk [illegible] Mk [illegible] の最終型15部を[illegible] 含めて のみ Mk [illegible] H F [illegible] F Mk [illegible] を含め [illegible] 機が生産され 1942年から H F [illegible] は第32 [illegible] 124 [illegible] などの中隊 F [illegible] は第 [illegible] 中隊 [illegible] 本土上空[illegible] [illegible] の主翼の [illegible] は標準型 [illegible] に置く [illegible] 翼端の [illegible] 付きとなった [illegible]

[illegible] ト [illegible] F Mk [illegible] [illegible] 上記の [illegible] [illegible] の Mk [illegible] 中 [illegible] としての配備は Mk [illegible] [illegible] 1943年夏頃から地中海方面の戦場へ投入され [illegible] やビルマ方面でも250と500ポンド爆弾を搭載して戦闘爆撃機として活躍 [illegible] 下の写真の機体は Mk [illegible] て [illegible] 主翼を付けている [illegible] のうちの [illegible] 機体のように [illegible] 先端 [illegible] [illegible] ものとなった [illegible] 生産機数は1,658機

[illegible] Mk [illegible] の実用機のひとつ [illegible] L F Mk [illegible]











上 [illegible]ページ下と同じLF Mk IX フォッケウルフFw190に対抗するため Mk Vの機体にマーリン[illegible]系エンジンを搭載[illegible]造られ[illegible]のがF Mk IX [illegible]エン[illegible]型[illegible]低空 中高度 高々度用[illegible]分けられ[illegible] 写真の機体はその低高度用の1機 Mk IXは1942年7月[illegible]ナーンチャーチ[illegible]第64中隊[illegible]初めて配備され 本土防空任[illegible] [illegible]大戦末期は爆弾を搭載して対地攻撃にも使われ[illegible] [illegible]造られた型であろう5[illegible]機以上という多数が量産されている

下 20mmイスパノ機関砲を[illegible]翼[illegible]付[illegible]Mk IX[illegible] 機体はトンガからの献金で造られたもので 胴[illegible] PRINCE TUNGI TONGA No.II [illegible]書かれている





写真で見る第2次大戦の米海軍機マーキング

ヘルキャット コルセア アベンジャー

〔上〕パラオ諸島方面の海上を飛行中のF6F-5Nヘルキャットとアベンジャー。F6F-5Nは海兵隊第541夜間戦闘飛行隊（VMF(N)-541）の所属機で、全面グロッシーシーブルーの塗装。下方に見えるF6Fの胴体には夜間戦闘飛行隊を示すF(N)とコードナンバー92が描かれている。

〔下〕海兵隊第222戦闘飛行隊（VMF-222）所属のF4U-1Aコルセア。機体の塗装は上面と外翼下面がシーブルー（ノンスペキュラー）、側面と垂直安定板はインターメディエイトブルー、下面インシグニアホワイト。1944年春、ブーゲンビルにて。

(Photos: U.S.Navy, National Archives)





上　海兵隊第132雷撃爆撃飛行隊 VMTB 132のTBM-3アベンジャー 1945年7月29日の撮影で 護衛空母ケープ・グロスター（CVE-109）に配属され[illegible]のもの 全面グロッシーシーブルーで 尾翼と胴体と主翼[illegible]2本の帯は黄色 尾翼付根と右翼上面 左翼下面[illegible]ウイングマーク 2H である

（下）護衛空母ペトロフ・ベイ（CVE-80）の甲板でアレスティング・ワイヤーに着艦フックをひっかけた瞬間のTBM-3アベンジャー 第90混成飛行隊 VC 90 の所属機で[illegible]れも全面グロッシーシーブルー 主翼や垂直尾翼のマーキングはT－で[illegible]である 1945年5月5日の撮影





エアラインの翼

KLM オランダ航空 ⑤

今回はKLMが1940年に導入したダグラスDC-5 PJ-AIW機。KLMでは乗客16〜20人乗りとして使っている。

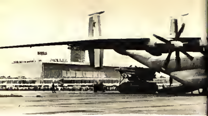
ところでこのPJ-AIW(MFG No.424)の一生がかなり変っていて興味ふかい。同機は1940年4月30日にボーイングに納入され、5月8日にKLMに売却されたものであるが、最初はPH-AXAのシップナンバーがあたえられ、ヨーロッパの地域の定期フライトに使用された。

翌年の1941年に写真のようにPJ-AIWの登録記号に変更され、オランダ領西インド諸島をKLMウェストインディス・ディビジョンの手で運航されている。同年6月10日にはPK-ADDの登録記号に変りKLMローヤルネーザランド・イーストインディア・エアウエイの東インドのジャワ、バタビア方面で運航している。

1942年2月には戦火を逃がれてオーストラリアに避退、PK-ADDをVH-CXHの記号にかえて、第2次世界大戦中の手でオーストラリア連邦理事国航空輸送の任務につくが、1944年6月、オーストラリアに駐留するアメリカ陸軍航空隊に売却されて44-83231のシリアルナンバーがあたえられ、オーストラリア、マーラ、ルソン、フィリピン諸島で活躍、1945年老朽となった同機はついにスクラップされたという略歴である。

なおKLMのもう1機のDC-5 PH-AXG(MFG No.430)は1942年2月9日にインドネシアのケマジョラン飛行場で日本軍の戦利品として捕獲され、各種の実験に使用されている。（上の写真は菅野鉄一氏提供）





ソ連航空界の近況

上〕「ミサイルを運んできた」アントノフAn22コック輸送機 巨大な [illegible] スナ 7 2重反転プロペラのダイナミックな動き [illegible] 対空ミサイル ガネフで [illegible] 自動[illegible]を持ち 全長約 [illegible] 5m 胴体の直径0.80m An22はこれを2基組み合わせたランチャー [illegible] 下〕[illegible]の中距離ライナーとしてアエロフロートの路線に就航を開始した Tu-154 写真は [illegible] の路線に就役すること となった 機





(Photos by TASS)

（右・下）ソ連ではワンマン・コプターや小型機の研究もなかなか盛んで、写真はピャトーゴルスキイ技師が主宰するキュビイシェフ航空研究所設計部の学生たちの造ったワンマン・オートジャイロ研究機「スヘルコク（クリケット）」。下の写真でおわかりのように昨年夏初飛行を終えており、実用化をねらってただいま細部も改修中という







（右）フ[illegible]ウント弯に面する[illegible]レスキイ地方はスポーツ航空が盛んなところ。アーセニフの町のエアロクラブには数種の小型機、5機種ものグライダーがあって、毎日のように飛行練習を行なっている。写真は飛行前の打ち合わせをする女性会員